

手をつなごう2007

事例紹介

平成20年3月17日
岡山県立東備養護学校
支援部だよりNO. 36

特別支援教育が始まって1年が経とうとしています。それぞれの学校で様々な工夫をしながらクラスの「気になる子」への対応をされてこられたことでしょう。そして今年取り組みを来年度に引き継ぐべく、まとめをされている時期だと思いますので、今回は本校の巡回指導を利用してくださった、ある小学校の事例をご紹介します。

低学年のA君

1学期当初はほとんど教室にいたことができず、あちこちでトラブルを起こし、本人も周囲も大変そうでした。特に次のようなことで困っておられました。

- ・指示が聞けずに、学習に入りにくい。係や当番活動もできにくい。
- ・友達とうまくかかわれず、たいたたり暴言を吐いたりする。
- ・家庭でも保護者は対応に困っていて、厳しく当たってしまうことがある。

担任・支援員・コーディネーター

本校開催の公開講座やコーディネーター講座を熱心に受講されるとともに、本校に相談・校内見学等にられました。そしてコーディネーターが校内支援の要となつて、ケース会の開催など力をつくされました。

管理職

本人へ積極的にしかかわると同時に学校としてどのような体制を組んで進めていけばよいか、一生懸命考えられました。

取り組み1

ケース会で具体的な目標を設定しました。そして本人にも分かるように目標を示し、「できたらシールを貼る→シールがたまるとみんなで楽しい活動ができる」というようにしました。同時に「記録をとる→評価をする→次の目標を設定する」ことを積み重ねた結果、本人も目標を意識して取り組み、シールをためることを励みに頑張ることができました。何よりA君自身が「頑張ればできる」「ほめられると嬉しい」ということが実感できるようになって変わってきました。

取り組み2

保護者に対しては校長先生が聞き役となり、信頼関係を築くことができ始め、保護者を交えたケース会を開くことができました。その中で、学校でうまくいった方法を知らせたり、家庭での取り組み方を相談したりすることで、保護者も「叱るのではなく、本人が意欲がもてるように取り組んでいこう」という気持ちになってくれました。



取り組みのポイント

- 学校全体での取り組み
 - ・管理職がリーダーシップを発揮して取り組んだこと
 - ・コーディネーターが役割を果たし、チームとして取り組んだこと
 - ・ケース会を適宜開催し、必要なことを確認しあつて実行できたこと
 - ・担任・支援員の連携、他学年との共通理解ができていたこと
- 主体的に学び実践する姿勢
 - ・問題解決に向けて自分たちから行動したこと
 - ・学んだことを「まずやってみよう!」とすぐに実践したこと
- 具体的な目標・手立て
 - ・ただ「落ち着く」ではなく、たとえば「15分授業に参加する」「運動会の練習を見学する」など、本人にも分かりやすい目標を立てたこと
 - ・頑張ったら何ができるか(ご褒美=強化子)をうまく設定したこと
 - ・できないときの2次的な目標や手立ても考えていたこと
- 保護者との連携
 - ・保護者を責めずに、現在可能で具体的な方法を一緒に考えたこと
- 他機関との連携
 - ・学校の主体性をもちながら他機関と連携してすすめたこと



まだまだ課題は多いのですが、A君への取り組みを通して、担任の先生だけでなく、学校全体として特別支援教育への理解が深まっている様子を見せていただき、私たちも多くのことを学ばせていただきました。(文責: 富谷)